

絆

K I Z U N A

2021 SEPTEMBER

JAグループ青森 月刊広報誌 [897号]

9



JAアオレン
りんごジュース

FSSC22000
認証取得工場

生まれ
変わって/
新登場

野菜と果実で健康生活！



野菜汁・果汁
100%
280ml 角PET

青森県農村工業農業協同組合連合会

〒036-8317 青森県弘前市外瀬二丁目2番地1 TEL:0172-33-7520代 FAX:0172-38-2330
☎ 0120-34-7520 URL <http://www.aoren.or.jp/>

りんごジュースで青森を元気に！ 祭りシリーズ発売

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、県内のイベントが中止や延期となったことで、祭りを楽しみにしている県民や県外の方々の落胆は計り知れないものがあることと思われます。

このような中、アオレンでは少しでも県全体を明るくし、元気づけられる商品をお届けしたいとの思いから、地域を代表する祭りを使用した『青森祭りシリーズ』を発売いたしました。

県外のお客様のみならず地元の方々に訴求するため、青森県を代表する祭りを意匠に採用。また、それぞれ特徴的な味わいとするため、祭り発祥の地に関連したりんご品種を使用し、アオレン独自の「密閉搾り製法」で趣向を凝らした味わいとなりました。

今年も各地域で祭りが中止となりましたが、県外の親戚、知人、友人に本商品をお届け頂くことで、青森の夏祭りを感じて頂きたいと思います。



令和3年6月28日 三村知事に新商品発売をPR



三村知事に表敬訪問をした
小笠原専務（右から4人目）

三村知事は「旬のりんごを使った密閉搾りのジュースは丸かじりのような感覚で美味しい。お客様にぜひ最高のりんごジュースを飲んでもらいたい」と期待を述べた。

JAアオレン

絆9 目次 KIZUNA CONTENTS

メッセージ	1	実践農業者支援	12
フラッシュ	2	経営の窓口	14
インフォメーション	4	輝き	15
東北農政局通信あおり	10	自慢の逸品	15
組織農政通信	11	みりよく発信	16

フラッシュ



JA 青森

詐欺被害などの未然防止へ 高齢者見守りにJAも協力(8/12)

外ヶ浜町は、2021年3月に発足した外ヶ浜町消費者安全確保地域協議会の構成団体に対し、登録証の交付式を外ヶ浜町役場で行い、JA 青森からは蟹田支店の青木敬支店長が、山崎結子町長から登録証を受け取った。

山崎町長は「県内でも、高齢者を中心に新型コロナウイルス関連の特殊詐欺による被害が急増するなど、深刻な状況になっている。高齢者の見守りを強化し、異変を察知した際には消費生活センターなどの関係機関に適切につなぐなど、地域で見守る体制を構築することが有効となる」と話した。



JA ぐしよつがる

空気殺菌器設置／感染リスク低減(8/7)

JA ぐしよつがるは、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策の一環として、本・支店に空気殺菌器を設置した。

空気殺菌器はアイリスオーヤマ製で、天井への取付タイプ。JA グループ関連施設への導入は全国で初めて(工事開始時点)。同機器は、可視光よりも波長の短いUV(紫外)―C光を利用。UV―C光は、微生物のDNAとRNAを破壊する能力があり、様々な微生物の感染リスクの低減が期待できる。

農業用廃プラスチック回収量増加(8/4)

JA 相馬村では、5月に引き続き2回目となる農業用使用済廃プラスチックの回収を行い、46人の生産者が参加した。5月の取組みをJAの広報誌で周知したことから、昨年夏の1.7倍の820^{kg}となった。JAでは、今後も適正な処理方法で廃棄できるよう取組を進めていく。

JA つがるにしきた



順調に登熟進む 青天の霹靂(8/27)

JA つがるにしきたは、管内3ヶ所で「青天の霹靂」の適期刈り取り講習会を開いた。鶴田町の斎藤琢磨さんの圃場(ほじょう)で行われた講習会には、生産者20人が参加し、刈り取りの判断基準を確認した。西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室の對馬文恵主査が「今年は高温で経過したため刈取適期は例年より早まる見込み。出穂が早かった圃場では高温の影響を受けて胴割れが懸念されるため、乾燥調整には十分気をつけるように」と呼び掛けた。

JA つがる弘前



軽トラ市で生産者と消費者をつなぐ(8/7)

JA つがる弘前は、JA 本店駐車場で、今年度1回目となる「軽トラ市」を開いた。午前7時から、新鮮な野菜や果物、総菜、加工品、雑貨などを軽トラックの荷台などで販売する17店舗に加え、子どもでも楽しめる射的コーナーを開設。

JAのこども共済やJAバンク相談コーナーも設け、契約内容の見直しやお得な情報の提供も行った。

来場者は「新鮮な野菜を買えて満足」「生産者と顔を合わせることができるので安心」と話した。



JA 相馬村

JA十和田おいらせ



被災者に役立ててほしい 米、豚肉届ける（8／16）

JA十和田おいらせは、台風9号から変わった温帯低気圧による豪雨で浸水や土砂崩れなどの甚大な被害を受けた風間浦村へ支援物資を届けた。斗澤康広専務と小向豊常務が同村役場を訪問し「被災された方のために役立ててほしい」と「まっしぐら」600kg、ブランド豚肉「奥入瀬ガーリックポーク」10kgを役場担当者に手渡した。同村役場の土井豊副参事兼防災推進監は「大量の救援物資に感謝する。カレーライスや豚汁などで被災者を勇気づけたい」と話した。

「津軽の桃」プレゼント企画実施（8／19）

JA津軽みらいは、ブランド桃「津軽の桃」のプレゼント企画を実施した。応募は県内のフリー情報誌で募集し、880件の応募があった。JA本店で抽選を行い、同JAの佐藤佳克常務が抽選箱から番号札を取り出し、50人が当選した。佐藤常務は「当選した皆様には桃を味わい、おいしさを広めて生産者を応援してほしい」と話した。



JA津軽みらい

バレイショ品質良好 共選盛んに（8／11）

JAおいらせの三沢市谷地頭にある選果施設では、バレイショの共選が盛んに行われている。JAおいらせやさい推進委員会バレイショ部会は今年度、昨年度の実績111トン増の965トン計画。選果は9月上旬まで行われる。

JA担当者は「M、Lサイズが中心で、品質は良好」と話し、現在、メークインの選果を行っている。出荷先は北海道と沖縄を除く全国各地に出荷されている。



JAおいらせ

JAゆうき青森



肥育農家応援・地場産牛肉消費キャンペーン実施（8／6）

JAゆうき青森らくのう営農センターは、管内で肉牛を生産する農家の応援と地場産の牛肉を食べて元気になってほしいという願いから、生産者の坂田弘志さんが育てた肉牛を3頭まるごと買い取り、組合員へ販売を行った。

買い物客は「昨年購入し、おいしかったので、今年も販売を楽しみに待っていた」「地元生産者の牛肉を買うことで少しでも消費活動に貢献できたら良い」と好評であり、用意した牛肉810セットは即日完売した。

JA八戸



振込詐欺講座で被害未然防止策を学ぶ（8／3）

JA八戸五戸支店は、同支店で地域ふれあい活動を行い、地域住民28人が参加した。同活動では、五戸警察署生活安全課の警察官2人を講師に招き、「振込詐欺・特殊詐欺防止」について学んだ。講師からは詐欺グループは「役場の職員や警察官を装って、保険料が返金される。このことは周囲の人や家族に相談しないで自分で決めてほしい」と話し、ATMに行かせることが多いと説明した。

きらきらサークル初の研修会開催／ 女性部活動で子ども・孫との交流深める

青森県JA女性組織協議会は7月28日、30日の両日、青森市の県農協会館で「第1回きらきらサークル研修会」を開き、2日間で県内9JAから45人が参加した。今回の研修では、子どもや孫と一緒に楽しむことができるように、小・中学生の夏休み期間に合わせて「ボタニカルキャンドル」と「おやさいクレヨン」を企画した。

キャンドルづくりの講師には、プリザーブドフラワー・キャンドル教室「sora」の沓澤香純さんを招き、ドライフラワーなどの天然素材をあしらったアロマ付きボタニカルキャンドル作りを行った。オリジナルクレヨン作りでは、生産過程で欠けたりパッケージが汚れて、はじかれたおやさいクレヨンを使用。クレヨンをカッターで刻み、シリコン型に好きな色を組み合わせ入れて、レンジで溶かし、冷やし固めた。

参加者は「キャンドルの色合いがとてもかわいい」「企画が面白いので、子どもとまた参加したい」など感想を述べた。

同協議会では、若年層の女性部員が減少し活動困難となったことから、今年度よりフレッシュミズ部会を年代関係なく新しいことに挑戦する「きらきらサークル」へ組織変更を行っている。同サークルは今後、秋ごろに第2回きらきらサークル研修会を開催し、新規女性部員の増加に向けた活動を実施していく。



▲キャンドル作りをする参加者

メロンの魅力を感じて！ メロン収穫体験ツアー

JAグループ青森は7月31日、五所川原市とつがる市で東奥日報社の女性倶楽部（くらぶ）「女子〇（じょしまる）」のイベント「溢れ出すおいしさにめろめろ♪メロン収穫体験ツアー in つがる」を開いた。参加者20人はメロンの収穫や、地域の農産物やJAへの理解を深めた。

JAごしょつがる木造支店に隣接する多目的農業施設でメロンの選果や箱詰めなどの一連の作業過程を見学。その後、同JAつがる市木造のメロン部会の原田拓夫さんの圃場で、収穫までの作業内容や収穫方法について説明を受けた後、2グループに分かれて収穫した。

「つがる地球村森のレストラン ライオン」で昼食をとり、メロン入りモッツァレラチーズと生ハムのサラダ仕立て、メロン果汁100%ジュース、「お菓子の工藤」の工藤拓也さんが実演したメロ

ンキューブにジェラートと生クリームをのせたシュークリームを味わった。

参加者はツアーを通じて「農家のおかげで食が守られていることを実感した」「メロンの糖度が高く甘みを強く感じた」などと感想を述べていた。



▲圃場で収穫を体験した「女子〇」参加者

ダイちゃんの店

青森県営農高等学校は8月6日、七戸町の校舎敷地内で農産物直売所「ダイちゃんの店」を開き、トマト、ナス、ブルーベリーなどを販売した。買い物客は営業開始前から並び、学生が同校で栽培した旬の野菜などを手に取ってレジに並んでいた。

買い物客は「学生が育てたものなので、“新鮮さ”を楽しみに来た」と話し、学生代表で同校農畜産物販売委員会の船木優杜さんは「生産から販売まで任せられているため、責任が伴うのでやりがいがある。季節ごとの野菜を取り揃えており、お客さんにはぜひ足を運んで欲しい」と述べた。

「ダイちゃんの店」は学生のマーケティング教育を目的に、2011年から開始して、今年で11年目。ダイちゃんは県営農高等学校のマスコットキャラクターの名前にちなんで付けられている。

今回は皮切りに12月までに6回実施する。次回は9月3日を予定しており、キュウリ、トマト、梨、ブドウを販売する予定。売上は学校の活動費として役立てている。



▲品物を見る買い物客

2021年度青森県高校生クッキングコンテスト

第32回全国産業教育フェア青森大会準備委員会が主催する「青森県高校生クッキングコンテスト」が8月19日、アピオあおもりで開かれ、青森県立百石高校の二川目咲妃さんと藤田陽妃さんが金賞を受賞した。

2人は夏野菜のテリーヌ、リンゴ入り生春巻き、鶏もも肉のソテー、ブルスケッタ、手鞠寿司、マリンゼリーを作り、女子高生をターゲットに「ヘルシー」と「映え」を意識した料理を作った。

審査を担当した青森中央短期大学食物栄養学科の池田友子特任講師は「目で楽しむ工夫が随所に見られた。青いゼリーが夏らしく、リンゴの甘味と酸味を活かしソースとして応用する発想がとて

も良かった」と講評を述べた。二川目さんと藤田さんは「試行錯誤の末に、生春巻きに合うリンゴのソースを作ることができた。まさか金賞を獲得するとは思わなかった」と話した。

コンテストは、青森県産米と青森の特産物を生かした昼食を創作することで、食への関心を高め、創造性を養い、調理技術の向上および健全な食生活を実践する力を育むことがねらい。「高校生が元気になるランチ」をテーマに、青森県産米「青天の霹靂」と参加者の地域の「郷土の特産物」を1品以上使用。

材料費は米代を含め500円までが条件。60分以内に3食分の調理・盛り付けまでを行い、「アイディア・オリジナリティ」「おいしさ」「作業態度」などを審査した。

コンテスト出場者は県内の高校生を対象としており、同一校2人を1チームまで。県内12校から48チームが応募し、予備審査、一次審査を通過後、二次審査には6チーム12人がコンテストに挑んだ。コンテストは来年10月開催予定の「第32回全国産業教育フェア青森大会」プレ大会と位置づけて実施した。



▲金賞を獲得した百石高校の二川目さん（右）、藤田さん（左）



▲閉会式を終えた参加者ら

巻き寿司の基本学ば

県J A女性組織協議会は8月27日、青森市でりんご・やさしいインストラクター研修会を開いた。同協議会に認定された同インストラクターが対象で、県内3 J Aから8人が参加した。

講師に青森県すし業生活衛生同業組合青森支部から一八寿しの岡田友也さんらを迎え、細・太巻きすしを作るうえでの基本を学び、また基本を活用したお花の飾り巻きすし作りを行った。

講師は「海苔に酢飯を広げる時は厚さを均等にすること」「巻き終わりは飯粒を糊にして閉じると崩れにくい」など巻きすしづくりのポイントを説明。具材が巻きすしの中心となるように手本を見せた。参加者は講師から指導を受けながら、3種類の巻きすしを完成させた。

参加者は「初めて作ったけれど、綺麗な巻きすしが出来てよかった」「お盆や正月に作ったら食卓が賑やかになる」と述べた。同インストラクターは、青森市で行われるイベント



▲巻き寿司を作るインストラクター

や県内スーパーなどで試食を伴う地場農産物のPR活動を行っている。新型コロナウイルスの影響により活動の場が減っているが、今回の研修会で学んだことを活かし、各J A女性部での料理教室等においてその技術や知識を伝えていく。



▲巻き寿司を完成させたインストラクターと講師のすし職人ら

J A直売所キャンペーン

J A青森中央会は県内のJ A直売所を訪れた買い物客に、抽選で県産牛などをプレゼントする「J A直売所キャンペーン」を9月4日から始めた。対象となる県内15のJ A直売所で、1,000円以上購入した方に専用応募はがきを進呈する。商品と当選人数は、県産牛「倉石牛しゃぶしゃぶ用」(400g) 5人、りんごジュース「希望の雫」(1ℓ×6本) 10人、県産リンゴ「サンふじ」(5kg) 10人、県産ナガイモ(5kg) 10人、県産ゴボウ(4kg) 10人、県産ニンニク(1kg) 25人、「青天の霹靂」(2kg) 80人、合計150人に贈る。

また、2,000円以上お買い上げの方には、県内15のJ A直売所合計先着1,000人に、県産米「まっしぐら」3合パックをその場でプレゼントする。キャンペーン期間は10月31日まで。



行事(9/10~10/10)

9月

- 10日 役員コンプライアンス研修会(WE B併催)(県農協会館)
- 14日 初級簿記研修会(WE B併催)(教育研修所)
- 15日 中級簿記研修会(WE B併催)(教育研修所)
- 21日 次世代リーダー育成研修会ユニット3パワーポイント研修会(教育研修所)
- 24日 令和3年度J A職員合同採用試験(県農協会館)

10月

- 6日 定例理事会(県農協会館)
- 6~8日 農協内部監査士検定試験準備研修会(WE B併催)(教育研修所)
- 7日 県J A女性協定例理事会(県農協会館)



JAバンクでは、顧客基盤の維持・拡大を目的に、2021年9月25日より、県内9JA^(※1)にて、「JAバンク優遇プログラム」のサービスを開始する。

JAバンク優遇プログラムは、JAとの取引内容をポイントに換算し、その合計ポイントによって、振込手数料などの各種手数料を優遇するお得なサービス。

個人のお客様が対象で、面倒な申込手続きは一切不要。もちろん年会費等もかからない。

優遇内容は3段階のステージによって異なり、毎月末時点のポイントを合計してステージを決定。優遇期間は翌月25日～翌々月24日までの1ヵ月間で各ステージに応じた優遇が受けられる。(サービス開始時の初回のステージと優遇期間は、8月末時点の取引内容をもとにステージを決定し、9月25日～10月24日までとなります。)

取引内容とステージ別の優遇内容は次のとおり。

お取引内容ごとのポイント

下記の合計点によりお客様のステージが決定します。

得点対象取引	取引内容	ポイント
給与振込	判定月またはその前月に給与振込として5万円以上の振込をお受け取りいただいていること	3
年金自動受取	一定期間内※に公的年金（農林年金・農業者年金・新国民年金・厚生年金・共済年金等）として振込をお受け取りいただいていること ※農林年金・新国民年金・国民年金・厚生年金・共済年金・船員年金＝2ヵ月間、農業者年金＝3ヵ月間、その他年金＝12ヵ月間	3
JAカード利用	判定月またはその前月、前々月にJAカードのご利用代金をJA口座からお支払いただいていること	1
正組合員資格 正組合員家族 准組合員資格	判定月の月末時点で、正組合員資格を有していること または、正組合員のご家族 または、准組合員資格を有していること	2
各種ローン	組合所定のローン（住宅、リフォーム、マイカー、教育、カード、フリーローン等）を判定月の月末時点でご利用いただいていること	2

ステージ別の優遇内容と回数

優遇内容	ステージ1 (0点～1点)	ステージ2 (2点～3点)	ステージ3 (4点以上)
JA個人ネットバンク 振込手数料無料	—	1回	3回
コンビニ提携ATM ^(※2) 入出金手数料無料	—	1回	3回

自分のステージや優遇回数は、取引のあるJA窓口で確認できるほか、「JA個人ネットバンク」をご利用のお客様は、サービス開始の9月25日より、パソコン・スマートフォンで確認できる。

JA個人ネットバンクは、下にあるQRコードを読み取るか、または「JAネットバンク」を検索して簡単に申し込みができ、ご利用も無料。本サービスの情報確認だけでなく、振込や税金等の支払、定期の取組、ローン繰上げ返済等、便利な機能をいつでもどこでも簡単に利用できる。

まずは、自分のステージや優遇回数を確認し、毎月のお支払いやネットショッピング等の振込には「JA個人ネットバンク」を、現金の入出金には「コンビニ提携ATM」を賢くお得にご利用を。

詳しくは、お近くのJA窓口まで。

<JA個人ネットバンク登録はこちらから>



(※1) JAつがる弘前は本サービスを取扱いしていません。

(※2) 本サービス開始に合わせ、2021年9月30日をもって「コンビニATM手数料無料サービス」を終了しますが、ローソン銀行、イーネット、セブン銀行のATMは引き続きご利用できます。

行事（9/10～10/10）

農林中央金庫

9月

- 14日 JAバンク青森運営協議会専門委員会（ウェブ会議）
- 14～15日 農業融資（融資・審査）研修（県農協会館）
- 28～29日 相続実務研修（県農協会館）

10月

- 2日 信用事業業務検定試験（県農協会館）
- 5～6日 統一事務手続研修〈貯金編〉（県農協会館）
- 7日 青森県JA信用担当部課長会議（県農協会館）
- 8日 貸出管理回収実務研修（県農協会館）

第1回JA全農あおもり花の共進会

JA全農あおもりは7月21日、青森市の県観光物産館アスパムで「第1回JA全農あおもり花の共進会」の審査を実施した。

県内の花き生産者からトルコギキョウ、輪ギク、アルストロメリアなど81点の出品があり、最優秀賞（青森県知事賞）にJAつがるにしきたの佐藤健一さんが出品したトルコギキョウ（レイナラベンダー）が選ばれた。

花の共進会は県産花きを紹介し消費拡大を図るとともに、優れた花きの展示及び評価により花き生産者の生産意欲高揚と栽培技術の向上を目的に行っている。

最優秀賞以外の上位入賞者は次の通り。

▽優秀賞＝水梨良文（ディスバットマム・JA八戸）

▽金賞＝松川岩男（輪ギク・JAごしょつがる）
明戸武治（アスター・JA十和田おいらせ）株式会社咲花園（アルストロメリア・JA津軽みらい）
小田桐昭一（りんどう・JAつがる弘前）高松岩男（かすみ草・JAつがるにしきた）小見山晴雄（トルコギキョウ・JAつがるにしきた）

▽メーカー特別賞＝山口雅人（バラ・JA津軽みらい）小見山博美知（トルコギキョウ・JAつがるにしきた）畑山拓也（スプレー菊・JA八戸）



▲県産花きを審査する審査員

毒物劇物取扱者試験講習会

JA全農あおもりは7月26、27日の2日間、青森市のはまなす会館で毒物劇物取扱者試験講習会を開き、県内JAから、肥料農薬担当者約60人が参加。9月の試験合格を目指し、毒物・劇物に関する法規や性質、貯蔵や取扱方法について学んだ。

全農あおもり肥料農薬総合課の藤田匡臣課長は「ここ10年の青森県での平均合格率は低い状況であるため、試験に向けて本日の講習でポイントを押さえ、万全の体制で臨んで欲しい」と話した。

講習会では、講師の解説を交えながら過去の試験問題に取り組み、内容の確認と対策について理解を深めた。



▲毒物劇物取扱について学ぶ参加者

すいか・メロンフェア

JA全農あおもりは7月31日、8月1日の2日間、青森県内のスーパーですいか・メロンフェアを開いた。マエダストア・イオン・マックスバリュ、のべ78店舗で開き、今が旬のすいかやメロンをPRした。



▲旬のすいか・メロンをPRする販売員

イオン東北(株)イオン青森店の須藤誠義農産マネージャーは「売れ行きは好調。メロンはギフト用として箱入りを購入する客が多い。すいかは食べ切りサイズの小玉が人気」と話した。

今年産の生育は概ね順調で、糖度も申し分なくジューシーな出来栄え。全農あおもり担当者は「出荷最盛期を迎え、多くの方に本県産すいか・メロンの食味の良さをPRしたい。是非、旬の美味しさを味わって欲しい」と話した。

ラジオで「青森いきいきやさいセット」を紹介

J A 全農あおもりは8月21日、ラジオ番組「J A 全農 COUNTDOWN JAPAN」で「青森いきいきやさいセット」の魅力を発信した。

同セットは、産地直送通販J Aタウン「J A 全農あおもりショップ」で販売中(9月30日まで)。旬の野菜を厳選し8種類以上で詰合せするもので、何が入っているかは開けてからの楽しみ。夏でも比較的冷涼な青森県の気候が、美味しい野菜を作る。

当日は、ゲストにJ O 1の大平祥生さんと豆原一成さんを迎え、パーソナリティとともにきゅうりやトマトを試食した。「フレッシュで美味しい」「1箱にたっぷり野菜が入っていてびっくり」などと好評であった。

同番組は、J F N38局ネットの音楽生放送番組。毎週土曜日13時から放送している。週替わりで著名なゲストを迎え、トークを交えてランキング形式で紹介。番組内でJ Aタウン商品をパーソナリティが試食してPRする。



▲ラジオで新鮮なやさいセットをPR

行事(9/10~10/10)

10月

- | | |
|----|-----------------------------|
| 6日 | 運営委員会(県農協会館) |
| 9日 | 「青天の霹靂」新米発売イベント(イトーヨーカ堂青森店) |

「青森いきいきやさいセット Wキャンペーン」実施中!

J A 全農あおもりは、青森いきいきやさいセットWキャンペーンを実施中。青森県産やさいの消費拡大を図ろうと進めている。

9月30日までの期間中、産地直送通販J Aタウン「J A 全農あおもりショップ」で青森いきいきやさいセットを購入するとキャンペーン①としてもちろん青森米450g(3合)パックが

ついてくる。また、購入後アンケートに回答すると抽選で県産品が当たるキャンペーン②にも応募でき、9月は乳製品詰合せセットを3名様にプレゼントする。

県産やさいには全国一の生産量を誇る「にんにく」「ごぼう」をはじめとして、生産量が全国10位に入るやさいが多い。同やさいセットは夏でも冷涼な青森県の気候で作られた美味しい県産やさいを詰合せする。



詳しくはこちら



JA共済きずなの青い森プロジェクトの開催

JA共済連青森は、7月27日に平内町立小湊小学校の5～6年生の児童と保護者を44人招待し「JA共済きずなの青い森プロジェクト」を平内町で開催した。

本プロジェクトは、「環境保全活動」をベースに、森を自然と触れ合う教育の場として活用し、様々な体験を通じて、森が地域や農業にもたらす恩恵や役割の理解を深めてもらうとともに参加者同士のきずなを深めることを目的とし平成29年度より開催している。

実施内容は森林プログラム、食育プログラム、木工クラフトプログラムという3つのプログラムで構成されている。当日は雨模様だったため一部プログラムが変更された。

初めに平内町弁慶内地区にあるJA共済きずなの青い森に集まり、森林組合あおもり職員の協力を得て森林プログラムが行われた。参加者は準備運動としてレインボー体操を行い、森林組合による薪割り作業体験や倒木を見学するなど自然体験を行った。場所を移し平内町立山村開発センターでは平内消防署の協力を得て、水消火器を使い消火疑似体験を行い、消火活動の大変さを学んだ。

次に木工クラフトプログラムが行われ、参加者が工作しやすいようカットされたスギ材を使いイスやプランターを集中しつつ笑顔で制作していた。

最後に青森県生活協同組合連合会・生活協同組合コープあおもり・青森県民生活協同組合・青森保健生活協同組合職員の協力を得て食育プログラムが行われ、食品ロスや県産のブランド牛や野菜に関する知識をビンゴゲームを行いながら楽しく学んだ。

参加者は、たくさん笑い周りとは協力しながらプログラムに取り組んでいた。



▲参加者のみなさん



▲木工クラフト体験の様子



▲水消火器での消火疑似訓練の様子

JA共済健康づくり活動QOL（啓発型）健診の開催

JA共済連青森は、8月2日～4日に青森県農協協会館に在籍する各連合会の職員と県内JA職員・地域住民総勢124人が参加し、「QOL（啓発型）健診」を県農協協会館で開催した。

弘前大学COI研究推進機構と連携し、健康診断と健康教育を一体化させ、より健康づくりの意識づけを重要視した「QOL（啓発型）健診」にJAグループとして取組むことで理解を深めるとともに、農家組合員（第一次産業者）全体とその家族および地域住民の健康意識の向上と、それに携わる職員の健康増進に取り組むことを目的とし開催した。

会場では、健康測定と弘前大学大学院医学研究科健康未来イノベーションセンター職員による健康教育が行われた。

QOL（啓発型）健診は8項目（体組成、握力、2ステップ、骨密度、片足立ち上がりテスト、唾液、皮膚カロテノイド、内臓脂肪）の健康測定を行い、その後の講義では即時結果をもとに参加者が振り返ることができる特徴となっている。

参加者は、健診結果を受取り、新規参加者と2年目の参加者が2つの会場に分かれ約1時間程度の講義を受講した。

講義では、健康測定の結果、直近の職場健診結果、事前アンケートをもとに健康教育と健康増進に向けた行動変容を促進する指導が行われるという内容となっている。

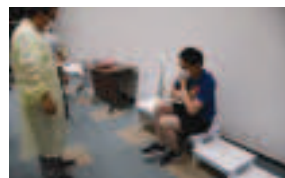
参加者は、生活習慣目標（食事、運動、睡眠、口腔ケア、喫煙、飲酒）の改善目標を設定し、日々の改善に努める決意を固めていた。



▲弘前大学大学院医学研究科特任教授の中路重之氏による健康教育



▲健康測定（握力）を行う参加者



▲健康測定（片足立ち上がりテスト）を行う参加者

行事（9/10～10/10）

- | | |
|-----|------------------------------|
| 9月 | |
| 30日 | 生命共済JA審査員有資格者研修会【1回目】（県農協会館） |
| 10月 | |
| 6日 | 運営委員会（県農協会館） |
| 7日 | 建物共済JA審査員有資格者研修会【1回目】（県農協会館） |

米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針を策定しました (7/29公表)

米 基本方針



米穀の需給及び価格の安定に関する
基本指針（農林水産省HP）
https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/beikoku_sisin/index.html

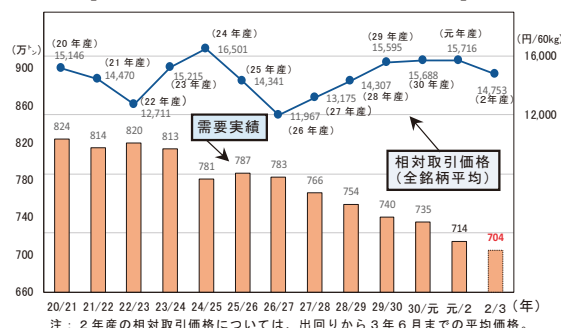
令和2／3年主食用米等需給見通し (令和2年7月～令和3年6月)

令和3年6月末民間在庫量は令和2年6月末（200万トン）より19万トン多い**219万トン**（速報値）となりました。

令和2年6月末民間在庫量	A	200
令和2年産主食用米等生産量	B	723
令和2／3年主食用米等供給量計 $C = A + B$	C	922
令和2／3年主食用米等需要量	D	704
令和3年6月末民間在庫 $E = C - D$	E	219

【2/3年の需要動向】

【最近における米の需要と価格の動向】



主食用米の需要量は毎年減少傾向にあり、2/3年の需要実績は、**前年（714万トン）**から約10万トン減少し**704万トン**（速報値）となりました。

令和3／4年主食用米等需給見通し (令和3年7月～令和4年6月)

令和3年6月末民間在庫量	E	219
令和3年産主食用米等生産量	F	693
令和3／4年主食用米等供給量計 $G = E + F$	G	912
令和3／4年主食用米等需要量	H	703
令和4年6月末民間在庫 $I = G - H$	I	210

- 令和3年産主食用米等の生産量は、6月末時点の作付意向調査の結果（6.2～6.5万ha減）を基に試算すると**平年作の場合694～696万トン**となる見込みです。
- 主食用米の需要量は、1人当たり消費量（推計値）に人口（推計値）を乗じる手法により算出し、**703万トン**（推計値）の見通しとなりました。
- この結果、令和4年6月末の民間在庫は、**210万トン**と見通されます。

令和3年産米に関する取組に対し感謝いたします。
今後も厳しい需給状況が見通されますが、引き続きご協力をお願いします。

組 織 農 政 通 信

～協同組合間連携による地域課題への取り組み～

日本の各地域では、人口減少や少子高齢化による労働力不足、商店街・繁華街の衰退による買物弱者の拡大など、抱える課題は深刻さを増している。地域を事業・活動基盤とするＪＡにおいても共通する課題である。

ＪＡでは組合員や地域住民のため、移動販売車の運行や高齢者の見守り活動など様々な地域課題の解決に取り組んでいる。

また、同じく地域に根ざす漁協（ＪＦ）・生協・森林組合なども地域の課題に取り組んでおり、各協同組合が連携することでより効率的・効果的に取り組むことができる。

協同組合間の連携は、各団体が同じ目的に向かって取り組むことにより、それぞれの強みを活かした多様な課題への対応が期待できる。

そこで、本稿では全国における協同組合間連携の事例について紹介する。

１．協同組合間連携の事例

（１）産直（産消）型

テーマ・連携の形態		内 容	成 果
長野県	地域農業の支援 ＪＡ＋生協	生活クラブ（生協）では1995年より生協組合員によるトマト栽培の労働力集中期に定植・収穫の支援を開始（計画的労働参加）した。農家からは生協組合員に対し日当4,000円（食事つき）の労賃を支給し、交通費等はトマトジュースの製品価格に上乗せして販売している。	取り組みは生活クラブ連合会・ＪＡながの・生産者組織・加工メーカーの連携として定着し、22年間で延べ2,225人が参加し、生産者も有償労働として計画に織り込んだ作付を行っている。

（２）事業連携型

テーマ・連携の形態		内 容	成 果
兵庫県	地域における高齢者支援 ＪＡ＋生協	ＪＡ兵庫六甲とコープこうべは、地元スーパーが撤退した地域の住民や自治体から、買い物支援の相談を受けた。これにより、2017年からＪＡ・生協のそれぞれで移動店舗の運行が週１回（計週２回）開始された。	2018年には神戸市・自治体・ＪＡ兵庫六甲・コープこうべで「地域活性化に関する協定」を締結し、自治体では移動店舗から新たな地域住民のコミュニティが形成され、自治体の見守り活動へと発展している。
三重県	鳥羽マルシェ ＪＡ＋ＪＦ	一次産業の振興と農漁村地域の活性化を図りたいという、鳥羽市の思いに賛同したＪＡ鳥羽志摩とＪＦ鳥羽磯部が、共同出資により「鳥羽マルシェ有限責任事業組合」を設立した。鳥羽マルシェでは地元農水産物の販売を通じて地産地消を推進し、ピュッフェレストランの運営や加工品の販売、６次産業化による地元農水産物の高付加価値化に取り組んでいる。	地元農水産物が地元で流通する体制を整備することにより、新たな雇用の創出にも貢献している。

（３）地域連携型

テーマ・連携の形態		内 容	成 果
茨城県	子どもの居場所づくり ＪＡ＋生協	ＪＡグループ茨城では、森林組合・ＪＡ・生協などの協同組合や福祉協議会等で構成される「協同組合ネットいばらき」に参加している。いばらきコープが子ども食堂の運営に取り組むにあたり、「協同組合ネットいばらき」を通じてＪＡグループ茨城に声を掛け、2016年より子ども食堂「ほべたん食堂」の取り組みを開始した。	協賛するＪＡから無償で食料提供を行い、生協組合員による調理ボランティア、大学生による学習支援ボランティア等、支援の輪が広がっている。
和歌山県	県内一斉クリーンウォーク ＪＡ＋生協＋ＪＦ＋森林組合	和歌山県では協同組合相互の連携強化を図り、身近な地域を散策しながら地域の美化活動に取り組む「クリーンウォーク」を県下一斉に実施している。	2011年よりＪＡ女性組織で始まったこの活動は、翌年県内の各協同組合に展開し、2013年以降は他府県のＪＡと統一で行う取り組みへと発展した。以降は毎年３月の第一土曜日に実施する活動として定着している。

２．「ゆるやか・あいのり・やってみる」

日本協同組合連携機構では、協同組合間連携の方針として「ゆるやか・あいのり・やってみる」を掲げている。他の協同組合と気負わず「ゆるやか」に繋がること、既に実施している取り組みに「あいのり」の形で参加すること、無理のない範囲で「やってみる」など、小さな取り組みを積み重ねることの重要性を訴える。

本会においても、各協同組合との定期的な会議による情報共有を行うとともに、県内ＪＡによる連携活動の支援をすすめていく。

（中央会 農業対策部）

実践 農業者支援

青森県農業労働力求人マッチングサイトについて

1. 青森県農業労働力求人マッチングサイトとは

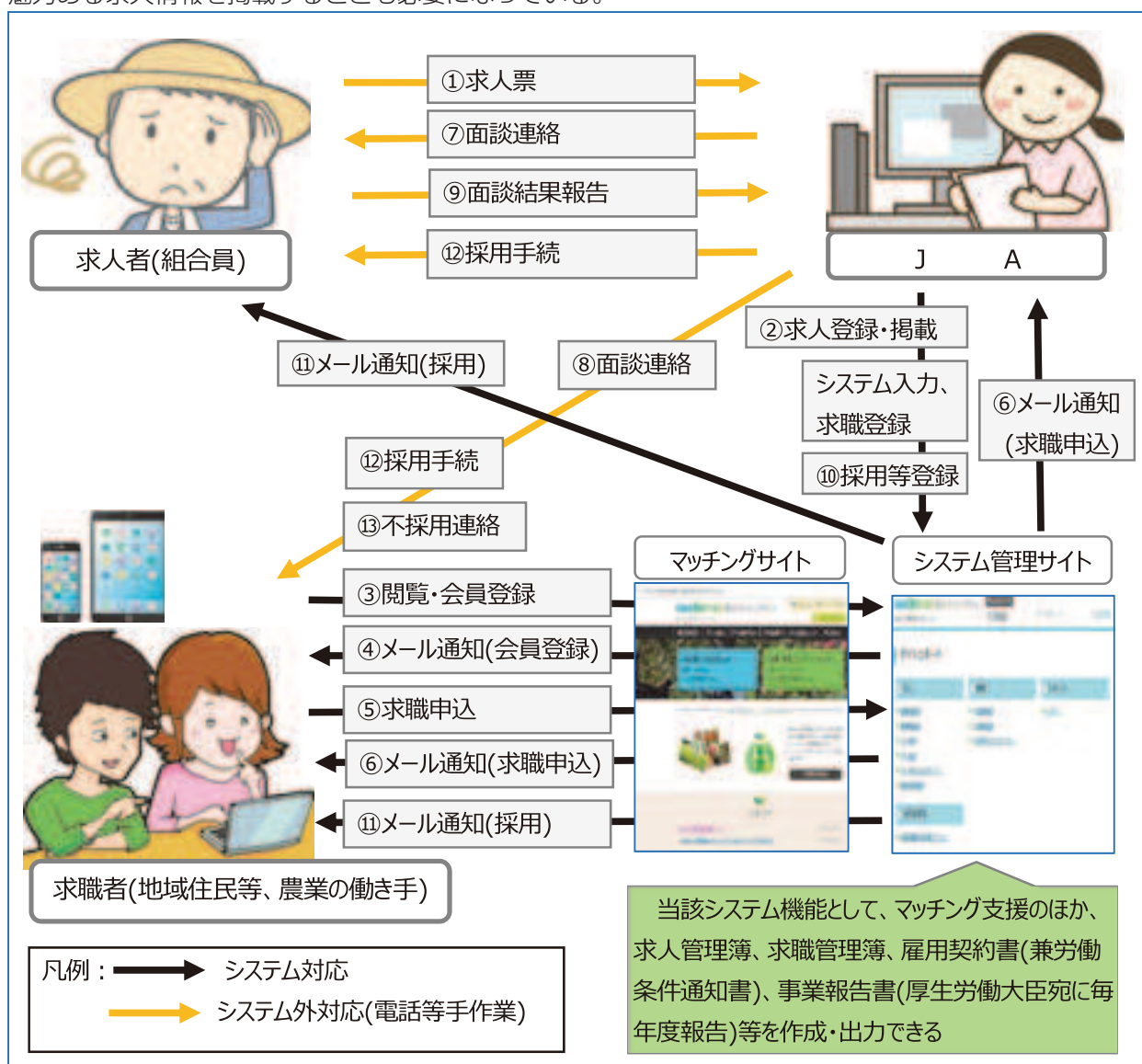
本会では、令和2年2月4日に「青森県ＪＡ農業労働力支援センター」を開設し、同年4月からは、農業労働力確保対策の一つとして、県より無償貸与を受けた「青森県農業労働力求人マッチングサイト」を運営している。

同サイトは、農作業従事者無料職業紹介事業（注）を行っている県内10ＪＡが求職者（地域住民等、農業の働き手）募集・マッチング向上を目的に活用している。

（注）農作業従事者無料職業紹介事業とは、厚生労働大臣への届出又は許可により法令に基づき無料で職業紹介を行う事業であり、ＪＡは、「取扱職種：農業の職業」について、ＪＡの組合員又は組合員等を対象に求人申込みを受け、ＪＡがＪＡ管内又は県内等に定めた「取扱地域」内の求職者を斡旋している。

2. 同サイトの仕組み（標準例）

ＪＡが求人者（組合員）及び求職者から申込みを受け、求人情報に合致した求職者を紹介してマッチング（雇用関係の成立）に繋げていることから、多くの求職者を募集することが重要であり同時に、多くの魅力ある求人情報を掲載することにも必要になっている。

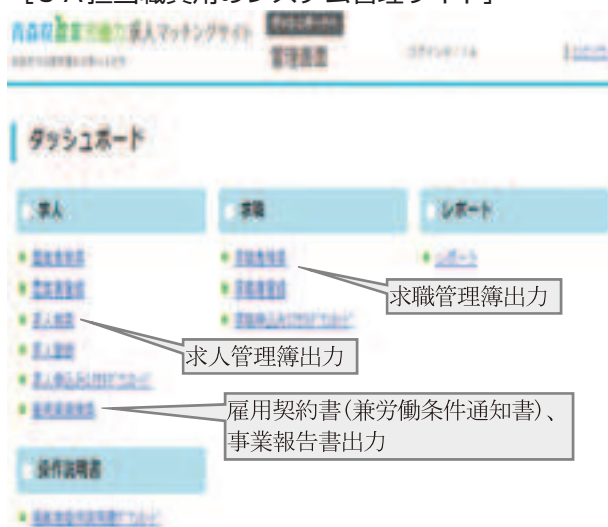


3. インターネットHPのトップページ [地域住民用の公開マッチングサイト]



URL : <https://www.aomori-agrijob.com/>
又はインターネットのポータルサイトで、
青森県、農業求人キーワードにより「検索」

[J A担当職員用のシステム管理サイト]



インターネットに接続後、
J A毎のID、パスワードによりログイン

4. 同サイトのPR活動について

同サイト及びJ Aの農作業従事者無料職業紹介所を紹介することにより、農家及び農業の働き手となる地域住民への認知度を高めることができ、求職者及び求人者の増加によるマッチング率向上が期待できるため、令和3年度において次のPR活動を実施した。

(1) PRチラシの作成と配付

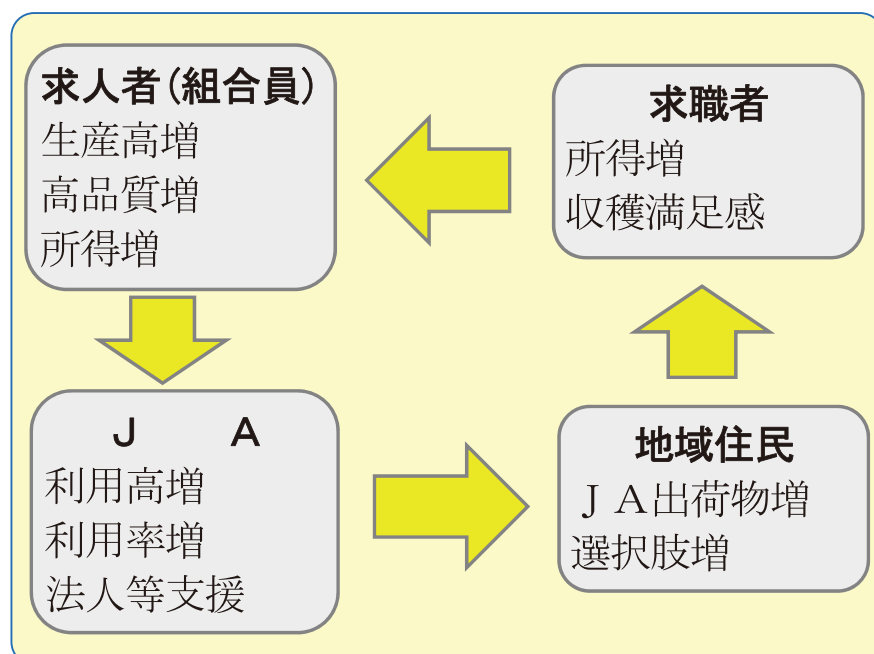
- ①6月以降、本会のコロナウィルス支援対策として県内4年制大学において県産米を配付する学生に対して、PRチラシを同封。
- ②令和3年2月27日に引き続き、8月29日に県内3紙（東奥日報、陸奥新報、デーリー東北）の購読者を対象に約36万枚を新聞折込。

(2) PRポスターの作成と掲示

各J Aでは、各施設等を中心にPRポスターを掲示。

5. 持続可能な農業・地域共生のために

求人者（組合員）、求職者、J A、地域住民の要望が充足されることにより満足が循環し、互惠・利他により地域が共生するなかで農業が持続することをめざす。



求人者（組合員）では、J Aによる求職者斡旋により労働力が満たされ、生産物の品質が向上するとともに、生産高・所得が増える。
J Aでは、雇用が必要な農家及び法人を支援することで信頼感を高めることができ、利用高・利用率が増える。
地域住民では、J A出荷物が増え、選択肢が増える。
地域住民のなかで、農業の働き手になりたい求職者が就職することにより、収穫の満足感を得られ、所得も増える。

(中央会 農業対策部)

経営の窓口

テレワーク勤務の導入に向けて ～ウィズコロナ・ポストコロナに対応した新たな働き方への対応～

1. はじめに

新型コロナウイルス対策などの背景から、多くの企業がテレワークを導入して一定の期間が経過した。厚生労働省の「テレワークの労務管理等に関する実態調査（速報版）（以下実態調査という。）」によれば、回答のあった3,788社中、「会社の制度として導入・実施している」としたのは14.3%、「会社の制度はないが、実施している従業員がいる」としたのは19.7%の、計34.0%となっている。また、従業員数の規模別では、「導入・実施している」としたのは1,000人以上の企業では42.9%、また「実施している従業員がいる」としたのは31.8%で、従業員規模100～299人の企業では、14.2%、22.5%と、企業規模が大きくなるほど導入率が高くなる傾向にある。また、業種別では、情報通信業が圧倒的に高く、医療・福祉等は低い結果となっている。

2. テレワークの形態

テレワークの形態は、業務を行う場所に依りて、労働者の自宅で行う「在宅勤務」、労働者の属するメインのオフィス以外に設けられたオフィスを利用する「サテライトオフィス勤務」、ノートパソコンや携帯電話等を活用して臨機応変に選択した場所で行う「モバイル勤務」に分類される。

3. テレワーク導入の効果と課題

実態調査では、テレワークを行ったことで感じた良い変化、新たな気付きとしては、①管理職や経営層の間でテレワークの利用が進んだ、理解が深まった。②テレワークではできないと考えていた業務ができることがわかった。③テレワークを普段の勤務の中に組み込んでいくことになった。等の意見がある一方、テレワーク（在宅勤務）で感じた課題としては、①できる業務が限られている。②職員同士の間でコミュニケーションが取りづらい。③テレワークできない職員との間で不公平感がある。④勤怠管理、評価が難しい。⑤情報セキュリティの確保が難しい等多くの課題があることも事実である。

4. テレワーク勤務の導入に際しての留意点

テレワーク導入にあたっては、必要なルールは画一的なものではなく、導入企業におけるテレワークの形態によっても異なることから、特にテレワークの実施頻度やテレワーク勤務者に対する影響を考慮する必要がある。在宅勤務を導入する場合にあっては、「情報通信機器を活用した在宅勤務の適切な導入及び実施のためのガイドライン」で示されている注意点を考慮し、内部ルールを検討することが必要となる。

5. 他県JAでの導入事例

本県JAにおいて、テレワークを実施している例はないが、令和2年11月7日の日本農業新聞にJA常陸の記事が掲載されていたので紹介したい。

「JA常陸では緊急事態宣言以降、一層のコロナ感染拡大時の対応策として、また子育てなど家庭生活と仕事の両立といったワークバランスの実現に向けてテレワークの導入を決めた。導入に当たり、テレワーク専用としてノートパソコンと通信用Wi-Fiルーター、連絡用スマートフォンを在宅勤務用として用意した。今後は関係部署でテレワーク可能な業務を精査し、クラウドサーバー導入も視野に入れJA全体で段階的にテレワークを導入していく。」としている。

また、組合長は、「コロナ感染拡大防止が導入のきっかけではあるが、職員の新たな働き方の一つとして、また業務効率化のためITを活用したテレワークを取り入れていきたい。」とコメントしており、積極的な姿勢を示している。

5. さいごに

JAの業務内容はテレワーク勤務に向かないと安易に結論付けるのではなく、管理者側の意識を変えることや業務遂行の方法の見直しを検討することが望ましい。

テレワークは、ウィズコロナ・ポストコロナの「新たな日常」、「新しい生活様式」に対応した働き方であると同時に働く時間や場所を柔軟に活用することのできる働き方として導入する企業も増えている。

また、業務の円滑化による生産性の向上や、育児や介護等を理由とした労働者の離職防止や遠隔地の優秀人材の確保等の効果も期待できる。

本会としては、労務管理を中心に、労使双方にとって留意すべき点や望ましい取り組み等、個別JAの実情に合ったテレワークの検討・導入に際し、必要な情報提供や支援を行っていききたい。

（中央会 経営対策部）



輝き

J A 共済連 青森県本部
自動車損害調査部 自動車損調総合G
きくち ゆうだい
菊地 雄大 さん

●プロフィール

2021年4月から勤務 つがる市出身 22歳

— 働くきっかけは？ —

仕事を通じて地域貢献ができることに魅力を感じたことと、相互扶助の理念に共感したことがきっかけです。

— 業務内容を教えてください。 —

自動車損調業務に関わる企画をしています。

— 働いた感想は？ —

業務に携わり知っていくなかで、学ぶことが非常に多くあると感じています。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

焦らないことです。

— 特技・趣味は？ —

10年以上陸上競技を続けてきましたので、陸上以外のスポーツにも挑戦してみたいと思っています。開催されれば青森県民駅伝にも挑戦したいです。

— あなたが自慢できることは？ —

大きな病気やインフルエンザにもかかったことがなく、とても健康な体であることです。

— 将来の夢は？ —

猫を飼うことです。

地元産にこだわり 奴豆腐・奴みそ



地元産にこだわった豆腐とみそを手にする土岐さん（青森県中泊町で）

五所川原市の土岐和子さんは、安全・安心にこだわった美味しい豆腐とみそ作りに取り組んでいる。豆腐は地元である五所川原市嘉瀬産の大豆「おすす」を100%使用。品質にもこだわり1等に格付けされた大豆のみを使っている。コクが強く甘みがあり、柔らかいのが特徴だ。

みそは無添加で沖縄産塩田塩を使用している。糀量が大豆量の2倍の「奴みそ」と糀量が大豆量の2.8倍ある「甘口奴みそ」の2種類。どちらも一度食べたらクセになる「あどはだり」みそと好評だ。

土岐さんが農産物の加工に携わって23年。地元食材の美味しさを知る土岐さんは「コロナ禍で健康志向がより高まっていると感じる。美味しいものを安全に食べられることが何よりも大事。また、地産地消は地域の食文化を守ることにも繋がっている」と話す。

豆腐とみそは中泊町特産物直売所「ピュア」で販売している。

豆腐は一パック（350g）で150円（税込み）。奴みそは1kg 550円（税込み）。甘口奴みそは1kg 600円（税込み）。

問い合わせ先：J A つがるにしきた「豆腐・みそ処理加工施設」

電話：0173-53-3518

記事提供：J A つがるにしきた



みりよく発信

セロリに挑戦したい 南部町沖田面 馬場 健大さん



夢を熱く語る馬場さん（青森県南部町で）

就農して2年目になる南部町沖田面の馬場健大さん（21）。代々農家という家系に生まれた馬場さんは、父が亡くなったことや、祖父が高齢だったこと、農業経営が母だけになることから、県営農大で学び、就農した。ねぎ70a、プラム70aを栽培している。

「農業は、会社で普通に働くよりも、自分で考えて作業をしたり、行動したりしなければならないが、やりがいがあり楽しい」と話す。自分が作った作物を種から育つのをしていると子どものように感じ、さらにそれが売れると嬉しくなると笑顔を浮かべる。

馬場さんの趣味は、生き物が好きで、トカゲや夏になると園地にいるカブトムシを採って、そのカブトムシを飼っているとのこと。

今後の目標は「地域の人や他の人が作付けていない作物にも挑戦してみたい。今はパプリカを育てているが、自分が好きなセロリにも挑戦してみたい」と話す。将来的には、人員が必要にはなるが、もう少し経営面積を増やしていきながら、商品の知名度の向上やブランド化を図るためにも法人化できればと熱く語ってくれた。

（日本農業新聞・青森県版8月12日掲載）

後編 記集

新型コロナウイルスの感染拡大を最後まで懸念されながら開催された東京オリンピック2020が終わった。「安全安心の五輪」の旗を掲げ、国内の大多数が開催反対の世論の声がある中、復興五輪と称した大会は、史上最高の金メダル27、銀メダル14、銅メダル17の合計58個のメダル獲得でイベント的には、開催の恩恵があった。

ただ、手放しではあまり喜べない点もあった。開会式の演出担当者に問題発言が相次いで発覚し本番直前になって辞任・解任が続出。それでも開会式は概ね好評であったが、当初の演出がそのままであればもっと世界の人々の記憶に残るもの

だったのではないかと。前回のリオ五輪で安倍首相が扮したスーパーマリオが出てこない点のはがっかりした。

大会に参加した外国の選手や関係者が連日のようにネットやSNSに「選手村の夜景や食事が最高！」「日本のコンビニは世界一」という記事には、この国の「おもてなし」に感動してくれた賜物である。

ファイザーワクチン2回目接種時に主治医曰く「接種が終わっても安心するな。特に県外には絶対行かないように」とまだまだコロナとの戦いは続くのである。（公）



ホームページアドレス

- JA青森中央会 <http://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧ください。
- JAバンク青森 <http://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧ください。
- JA全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <http://www.jakyosai-aomori.jp>
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組を紹介しております。

"ienohikari"

家の光

はこんな雑誌です!!

料理

- 旬の食材・基本の調味料でおいしく
- 調理時間は30分以内が目安
- 人気料理研究家が毎月レシピを考案



『家の光』の料理記事は
簡単なレシピで、
材料もわが家の畑から
調達できるものが多く、
助かります



健康

- だれでも手軽に取り組める
話題の健康法を厳選!



家の中で
簡単にできる体操や
ストレッチの記事が
役にたっています



手芸

- 身近な材料やキットでつくれる
- 30分程度で完成するもの中心



地域の仲間といっしょに
手と頭と口を
動かしながら
楽しんでいます。
脳トレにもなりますよ



園芸

- イラスト&写真でわかりやすい!
- 直売所での売り上げアップにも◎



連載記事の
「畑の時間」は、定年退職後、
右も左もわからず
畑を始めたわたしの
心強い味方です!



記事がさらに楽しく

掲載記事と関連した動画を「家の光YouTube」で
配信中。本誌・別冊付録の誌面にある二次元コー
ドを読み取ると、読者限定動画も見られます。



お申し込みはお近くのJA本・支店(所)へ

家の光

- 定価(税込) ●普通月号 629円
- 付録月号(1・4・5・7・9月号) 922円
- 家計簿付き12月号 1,027円

JAグループ 家の光協会

〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL.03-3266-9039
<http://www.ienohikari.net>

伝えたい人に、 伝える、伝わる。

JAグループの広報・PRは日本農業新聞の広告で。



広告媒体

日本農業新聞



全国のJAなどが出資し、農業の専門紙では唯一の日報として全国31万部発行※しています。農家組合員とJAグループ、地域をつなぐ全国メディアです。



※日本ABC協会認定
2020年1～6月平均販売部数

日本農業新聞Web



農業関係のWebメディアの世界でも有数のページビューがあり、(2020年度月間平均PV数100万)、農業関係者だけでなく、幅広いユーザーに閲覧されています。記事を配信しているYahoo!ニュースからも、多くのユーザーが流入しています。

フレマルシェ



JAのファーマーズマーケットを中心に全国で25万部を配布するフリーマガジンです。食や農業に関する多様なコンテンツを掲載。食に関心の高い30～60代の女性などの消費者がメイン読者です。

お問い合わせは、日本農業新聞広告部

【Eメール】 koukoku@agrinfo.co.jp 【TEL】 03-6281-5810



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞

わたしのミカタ

"Ienohikari"

家の光

コロナで外出ができないので『家の光』をしっかり読んでいます。知らなかったことがいっぱいです

毎号興味のある特集が掲載され、読むほどに新発見があり楽しく学べます

お申し込みはお近くのJA本・支店(所)へ

JAグループ 家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL 03-3266-9039 <http://www.ienohikari.net>

本誌記事と関連した動画をYouTubeで配信。5月号からは読者限定動画も! 誌面の2次元コードを読み取ってご覧ください。

家の光	定価(税込)
普通月号	629円
付録月号(1・4・5・7・9月号)	922円
付録月号(家計簿付き12月号)	1,027円



つがるロマン
TSUGARU ROMAN



青天の霹靂
SEITEN NO HEKIREKI



まっしぐら
MASSHIGURA

青森から3つの「美味しい!!」

青森米本部
aomori-komehonbu.gr.jp



©やなせたかし

Nツアー新型コロナウイルス感染予防商品のご案内

**Nツアー
旅行券利用
可能です!**

新型コロナウイルス感染対策商品です。日々の備えにぜひご検討、ご利用ください。
掲載商品は一部です。こちらに無い商品でも、お問い合わせくださいませ。

1) 非接触式検知器サーモマネージャーEX

非接触でスピーディーに体表面温度を検知！
人が集まったり行き来する場所で使用されています。
設置工事必要なし、かんたん組立。

★この他多種取り揃えあります！

価 格：80,000円
(税込88,000円)

ロット：1 個単位から可
送料無料

備 考：37.5℃以上の検知で高温異常を
色とアラームでお知らせ。
8インチ大型液晶
測定誤差は±0.3℃



2) 日本製CO2濃度測定器

贈品(換気)

商品のご案内<日本製CO2濃度測定器 HCOM-CNJP001>

日本製 CO2濃度測定器 HCOM-CNJP001

換気のタイミングを見える化！！
まん延防止等重点措置を対策して
安心な環境を。



販売価格	単価6,818円(税込7,500円) ロット272,720円(税込300,000円)
商品名	CO2濃度測定器 HCOM-CNJP001
製品サイズ	幅67×高さ98×奥行32mm
表示	二酸化炭素濃度・全揮発性有機化合物・ ホルムアルデヒド・湿度・温度
表示モード	スマートカラースクリーン
警報方式	色と音のデュアルリマインダー
動作電圧	DC5V
バッテリー容量	1200mAh
ロット	40個単位から
送料	1,100円(税込)(但し、北海道・沖縄・離島は除く)
備考	納期につきましては、都度ご確認ください。

★詳しい案内書をご用意しております。

★Nツアーでは“ノベルティグッズ”の多数取扱もございます。貯金キャンペーンや各種友の会・部会の記念品にぜひご用命ください。

お申込み・
お問い合わせは



(一社)日本旅行業協会正会員 観光庁長官登録旅行業第939号
株式会社 農協観光 青森支店
〒030-0847 青森市東大野二丁目1-15
総合旅行業務取扱管理者：伊藤 亨・田川ますみ
TEL 017-729-8800
FAX 017-729-8803

お申込み・
お問い合わせは

株式会社農協観光代理業
青森県知事登録旅行業代理業第26号
JA ゆうき青森旅行センター
☎0175-72-1433
総合旅行業務取扱管理者／八重樫泰浩

作品紹介

●令和2年度 「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール（図画部門）



■優秀賞（図画部門第二部）
「2回目の田植え」

弘前市立三和小学校

5年 山^{やま}上^{がみ}湊^{みな}仁^と



■優秀賞（図画部門第二部）
「おいしいお米になあれ」

十和田市立南小学校

5年 高^{たか}屋^や奏^そ良^ら